

大字之國史甲辰  
十一月丁卯

十ノ九

卷之三

一本布費十兩

卷之三

山東公府  
鉢本限多  
和部萬長  
絲本多節  
方弗相已  
今井勝造  
馬少郎  
30 30 2  
30 30 2  
30 30 2

原居  
大居  
小居  
生居  
宣居  
姑居  
第居  
女居  
夫居  
子居  
人居  
而居  
古居  
十八  
九

本部提案理由 説明 山口常二郎

主文  
支配階級の攻勢に對し、組織を強力擴大し、これに備へる方  
理由　め選挙戦線の統一を期す。  
無産政黨の合同は理論的附じてなく実行の持である。今更合同

理由  
無産政黨の合同は理論の附じてなく実行の時である。今更合同が  
心傳理諭を述べるも醫す。吾輩は全無産政黨の合同を乞ひ願ふ  
が故に労農党の提唱に應じてそれと、社民党は必然として加盟  
主義的態度を改めめてなく全く合同協議会への参加を拒絕し、勞農  
党提唱に依る全合同は労農党を排けてしては實現行きものにな  
らぬ。  
けれども今日まで我が全國労象党が重り重つに懸念を有せし事  
後も合同に拘束を仰へて之を黨に導入するものである。  
実行方略：  
全民族統一の立場へ邁進せしめること。

「金枝覺羅通」<sup>ル</sup>合羽へ薦進せしめこと。一  
之の御内閣の公の御序文を後で得て御見附  
て御了り給ひ

深的四眼